

グラウンドアンカー設計・施工基準，同解説（JGS 4101-2000）（第1刷～第4刷）正誤表

訂正日：2002/08/28

該当箇所	誤	正
p.14, 上から 8 行目	（3）アンカーの設計に際しては，必要に応じて基本調査試験を行い，その結果を反映する。	（3）アンカーの設計に際しては，原則として基本調査試験を行って，その結果を反映する。
p.15, 上から 23 行目	…テンドンの極限拘束力に対して安全率を考慮して決定する。	…テンドンの極限拘束力（ T_{ub} ）に対して，安全率を考慮して決定する。
p.26, 28, 30, 32 の各ページ 本文の上にある本のタイトル	「グラウンドアンカー設計・施工基準」解説	「グラウンドアンカー設計・施工基準」解説
p.27, p.29, p.31 本文上の章のタイトル	第 1 章総則	第 1 章適用範囲
p.28, 解説表－1.2 Bureau Securitas の行	Recommendations for the Design …	Recommendations for the Design, …
p.28, 解説表－1.2 British Standard Institution の行	British Standard Code of Practice For …	British Standard Code of Practice for …
p.30, 上から 14, 15 行目	編集委員会は委員 22 名によって構成されたが…	編集委員会は委員 23 名によって構成されたが，…
p.31, 上から 3 行目	改訂した	改正した
p.34, 下から 2 行目	旧基準	前基準
p.43, 解説図－2.1 のタイトル	解説図－2.1 定着長，支圧板，台座の使用例	解説図－2.1 定着具，支圧板，台座の使用例
p.45, 解説図－2.2	テンドン付着長，アンカー体定着長	テンドン拘束長，アンカー体長
p.49, 下から 1 行目	小さい方で決まる	小さい方で決まる。
p.61, 上から 16 行目	…の流通抵抗が大きくなり，…	…の流動抵抗が大きくなり，…
p.65, 上から 17 行目，19 行目，20 行目	反力体	台座

p.76, 解説表-4.4	降伏応力 (k N/mm ²) 引張強さ (k N/mm ²)	降伏応力 (N/mm ²) 引張強さ (N/mm ²)
p.80, 解説表4.7 左側3段目	緊張点強度	降伏強度
p.90, 上から15行目	…に防錆剤等の…	…に防錆材等の…
p.92, 下から2行目, 3行目	受圧板	台座
p.95, 上から9行目 基準条文6.1(3)	(3) アンカーの設計に際しては, 必要に応じて基本調査試験を行い, その結果を反映する。	(3) アンカーの設計に際しては, 原則として基本調査試験を行って, その結果を反映する。
p.97, 上から3行目	アンカーは, アンカーする構造物, アンカーされる地盤について, …	アンカーは, アンカーされる構造物, アンカーする地盤について, …
p.97, 下から5行目	注入材硬化時	グラウト硬化時
p.98, 7行目	…の直径の4倍以上または, 1.5 m確保すればグループ効果…	…の直径の4倍以上かつ, 1.5 m確保すればグループ効果…
p.98, 上から8行目, 13行目	定着	設置
p.98, 解説図-6.1①	$\frac{L}{2}$ (2箇所有り)	$\frac{l_a}{2}$
p.101, 上から1行目	…アンカー体は, 主働すべり線の外側にあっても…	…アンカー体は, 主働すべり面の外側にあっても…
p.107, 上から20, 21行目	テンドンの許容拘束力 (T_{ab}) は, テンドンからグラウトへの応力伝達方式に応じた検討を行い, 安全率を考慮して決定する。	テンドンの許容拘束力 (T_{ab}) は, テンドンの極限拘束力 (T_{ub}) に対して, 安全率を考慮して決定する。
p.126, 上から4行目	x	χ
p.141, 解説表-7.2 タイトル	解説表-7.2 アンカー体設置地盤と最大加圧力の例 ¹⁾	解説表-7.2 アンカー体設置地盤と加圧方法の例 ¹⁾
p.141, 解説表-7.3 1m ³ 当りの配合	12.07kN, 615～677ℓ, 9.32kN, 5.59kN, 475ℓ	1230kg, 615～677kg, 950kg, 570kg, 475kg
p.146, 下から11行目	…をもち, 所定の時間, 荷重を一定に保ちうるものとする。	…を持ち, 所定の時間, 荷重を一定に保ちうるものとする。
p.148, 解説表-8.1 品質保証試験-多サイクル確認試験の行, 10) 計測時期の列	各新規荷重段階で1min ごと	各新規荷重段階で0,1,2,5,10min ごと

p.156, 上から14行目	…設計アンカー力に所定の安全率を乗じて得られる荷重もしくは設計アンカー力より10～20%大きめの荷重を計画最大荷重とする。	…設計アンカー力もしくは設計アンカー力より10～20%大きめの荷重に所定の安全率を乗じて得られる荷重を計画最大荷重とする。
p.161, 上から19行目	における初期荷重 (T_0), すなわち定着時緊張力 (P_t) は設計…	における計画最大荷重 (T_p) は設計…
p.162, 式 (8.4)	$R_a = R_0 + R_g$	$R_a = R_0 - R_g$
p.162, 下から6行目	R_0 : 時間 t_1 ～時間 t_2 における残存引張り力の低下係 (kN/min)	R_0 : 時間 t_1 ～ t_2 における残存引張り力の低下係数 (kN/min)
p.163, 解説図-8.7(a)中の式	$R_a = R_0 + R_g$	$R_a = R_0 - R_g$
p.168, 解説図-8.8	(縦軸と横軸の交点が $0.1 T_p$ になっている)	($0.1 T_p$ は, 3' の横軸の目盛である)
p.170, 下から3行目～1行目	b) 次式によって定義するクリープ係数 (Δc) を算出する。 $\Delta c = \frac{S_{t2} - S_{t1}}{\log(t_2 / t_1)} \quad (8.7)$ ここで, S_{t2}, S_{t1} : t_2, t_1 における頭部変位量 (mm)	b) 時間 ($\log t$) ～変位量 (δ) 曲線を作成したのち, 設計アンカー力に対して, 次式によって定義するクリープ係数 (Δc) を算出する。 $\Delta c = \frac{\delta_{t2} - \delta_{t1}}{\log(t_2 / t_1)} \quad (8.7)$ ここで, δ_{t2}, δ_{t1} : t_2, t_1 における頭部変位量 (mm)
p.171, 上から1行目	t_2, t_1 : 計画最大荷重時の…	t_2, t_1 : 設計アンカー力時の…
p.172, 上から8行目	…構造物の安定が保てなく恐れが…	…構造物の安定が保てない恐れが…
p.189, 下から3行目	…点検・観測・計測は, アンカーの使用期間中継続して…	…点検・観測・計測は, アンカーの供用期間中継続して…
p.189, 下から2行目	…その頻度は, アンカーの使用目的, 用途および周辺の…	…その頻度は, アンカーの使用目的, 用途, 周辺の…
p.213, 「防錆・防食方法—引張り部」の行	アンボンドシース間内部防錆材充填 or スムースシース内部防錆材充填	アンボンドシース内部防錆材充填 or スムースシース内部防錆材充填
p.218, 「防錆・防食方法—頭部」の行	背面: スライドシース付き支圧板に防錆油充填	背面: スライドシース付き支圧板に防錆油充填
奥付, 発行年月日	3月30日	3月23日